令和元年　１１月　１　日

平成３１年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立田原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。
こうした考えから，平成３１年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。
また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

平成31年4月18日(木)

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，児童質問紙）
中学校　第３学年（国語，数学，英語，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

① 国語　　８２人
② 数学　　８２人
③ 英語　　８２人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，数学，英語の３教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

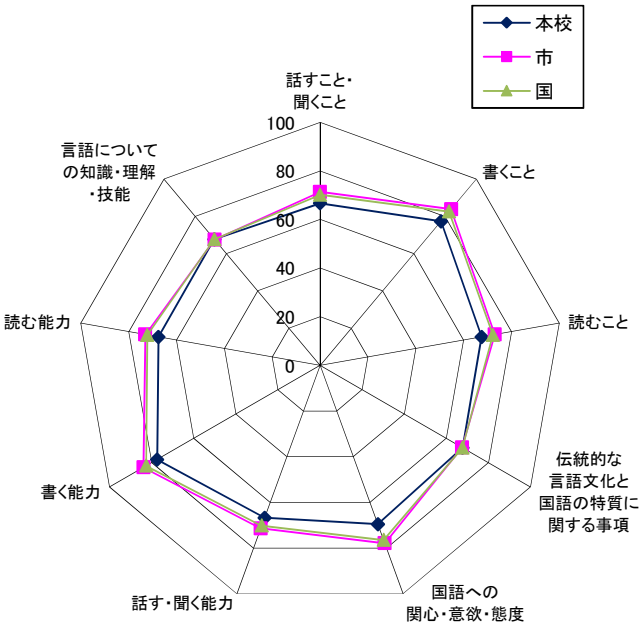
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原中学校第３学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと･聞くこと	66.7	71.4	70.2
	書くこと	77.4	83.9	82.6
	読むこと	67.5	73.0	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.7	67.5	67.7
観点	国語への関心･意欲･態度	69.5	77.9	76.5
	話す･聞く能力	66.7	71.4	70.2
	書く能力	77.4	83.9	82.6
	読む能力	67.5	73.0	72.2
	言語についての知識･理解･技能	67.7	67.5	67.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

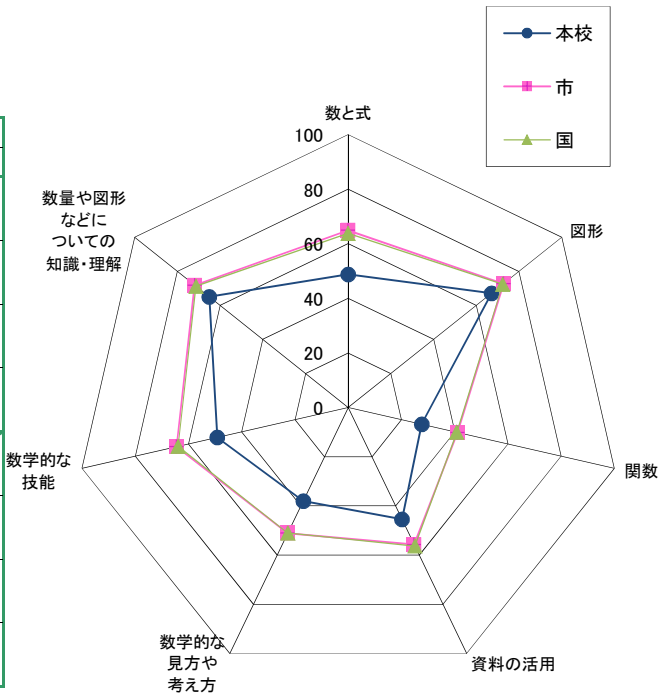
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は国の平均を3.5ポイント下回っている。 ○話し合いの話題や方向を捉える問題には，8割の生徒が正解している。 ●相手に分かりやすく伝わる表現について理解する問題は，6割の正答率である。 ●話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ問題の正答率は6割に満たない。無回答率も高い。	･相手に分かりやすく伝えるためには，表現を工夫すること，相手の反応を踏まえながら話すことが大切であることを理解させていく。 ･国語の授業をはじめ，学級内の話し合い活動等においても，話し合いの方向を適切に捉えて，自分の意見を述べられるよう習慣づけていく。 ･自分の考えを持ち，発表するためのメモを取る活動や，語彙を広げる活動を多く取り入れていく。
書くこと	平均正答率は国の平均を5.2ポイント下回っている。 ○書いた文章を読み返し，論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する問題の正答率は85%を超えている。 ●伝えたい事柄について根拠を明確にして書く問題の正答率は，70%に届かない。また，無回答率も1割近い。	･「意見文」の学習では，自分の考えが相手に伝わりやすいように，段落構成を工夫し，根拠を明確にすることを意識した練習をさせていく。 ･授業でも，新聞の読者投稿やコラムを用いて，ニュース・話題に対する様々な意見を紹介し，それに対する感想を記述させる活動を取り入れていく。
読むこと	平均正答率は国の平均を4.7ポイント下回っている。 ○文章の展開に即して情報を整理し，内容を捉える問題の正答率は，国の平均とほぼ同率である。 ●文章に表れているものの見方や考え方について，自分の考えをもつ問題の正答率は，8割を超えたものの，国の平均よりも8.3ポイント低い。	･「朝の読書」を通して，落ち着いた学校生活のスタートを呼びかけてきたが，主体的な読書には至らない生徒も多い。語彙力や想像力の向上等，さらに読書の効用をアピールしていく。 ･進路選択を控え，社会の様々な問題に目を向けさせたいと考える。そのためにも，授業の中で新聞の読者投稿やコラムを，一緒に読ませていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は国の平均と同率であり，市の平均を0.2ポイント上回っている。 ○語の一部を省いた表現について，話や文章の中での適切な活用の仕方を理解する問題の正答率は，国の平均より3ポイント高い。 ●封筒の書き方を理解して書く問題の正答率は，国の平均より3.1ポイント低く，無回答率も1割近い。	･2年次に，総合的な学習の活動と並行して，お礼状作成について指導したものの，封筒の表書きの指導は，徹底できていなかった。書写の授業において，はがき・封書の書き方についても確認・練習させていく。 ･自分の考えをわかりやすく伝えるためには，正確な文法の習得も大切である。その基礎・基本を定着させていく。

宇都宮市立田原中学校第３学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	48.8	64.9	63.8
	図形	67.1	72.8	72.4
	関数	27.6	41.1	40.8
	資料の活用	45.4	55.7	56.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	38.0	51.1	51.0
	数学的な技能	49.2	64.5	63.9
	数量や図形などについての知識・理解	65.1	71.9	71.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

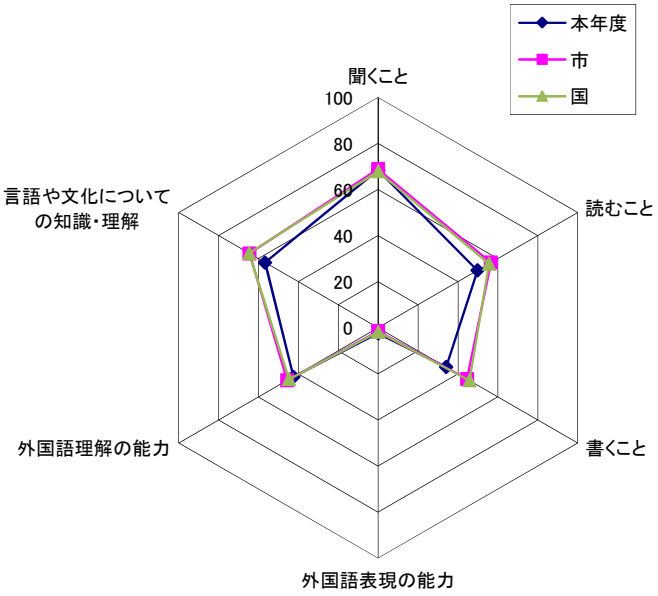
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は数学A，Bともに全国平均を下回っている。 ○知識・理解の部分では，正答率65%を越えているが全国平均には及んでいない。 ●文字を使った説明問題や式を変形する問題の正答率は32.9%で低い。 ●数学的な技能に関しては正答率49.2%で5割を切っている。	文字式に関する知識・理解の面では6割を越えているため，基礎的事項を使った式の変形の技能を高める指導をしていく。 文字を使った説明に必要な「数学的な考え方」に時間をかけ指導していく。
図形	平均正答率は数学A，Bともに1問を除き，全国平均を下回っている。 ○三角形の平行移動の問題では，全国平均を上回っている。 ○証明で用いる「三角形の合同条件」や反例を問う問題では，正答率が70%を越えているが全国平均よりは，やや低めである。 ●問題から新たな事項を見出し説明することに関しては35.4%と正答率が低い。	図形領域に関しては他の領域に比べて正答率が高い傾向にある。基礎的な事項から，さらに発展的に考える場面を授業の中で増やして，「数学的な見方や考え方」を高める指導をしていく。 数学的な説明の仕方を再確認し，問題から新たな事項を見出し説明する場面を授業に多く取り入れていく。
関数	平均正答率は数学A，Bともに全国平均を下回っている。 ●反比例の表から式を求める問題は26.8%，事象を数学的に解釈し説明する問題では正答率がかなり低い。 ●数学的な見方や考え方を問う問題での正答率が35%程度で非常に低い。	関数領域に関しては，全国・市ともに約55%という正答率であり，さらに本校はそれよりも10%ほど低い状況であるため，表やグラフの読み取りができるようにするための座標の解釈やや変化の割合の意味の理解に力を入れていく。 事象を数学的に捉えて活用する力はかなり低いので，身近な事象を数学的に解釈し，さらに課題を見出したり，数学的に考えたりする活動をペアやグループ学習を利用して高めていく。
資料の活用	平均正答率は数学A，Bともに全国平均を下回っている。 ○確率の問題では，正答率60%を越えている。 ●「数学用語」の理解度が低い。 ●資料の傾向を的確に捉え，数学的表現を用いて説明する問題では32.9%と正答率が低い。	資料を整理し活用していくための数学的用語の履修を十分に行い知識・理解力を高めていく。 資料の読み取り方をしっかり指導するとともに，読み取った内容から出てくる判断理由を説明できる表現力を高める指導をしていく。

宇都宮市立田原中学校第３学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	聞くこと	68.5	68.9	67.9
	話すこと			
	読むこと	49.8	56.5	55.6
	書くこと	34.1	44.6	45.8
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度			
	外国語表現の能力	2.4	1.5	1.8
	外国語理解の能力	42.5	45.6	44.7
	言語や文化についての知識・理解	56.7	64.5	64.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は市の平均に比べ、0.6ポイント低いが、領域の中では最も市の平均に近い。 ○絵を適切に表している英文をを聞き取る問題はおおむね良好であった。 ●長い英文を聞き取り、それに対するアドバイスを英語で書く問題では無答率が52.4%と半数の人が書けなかった。聞いたことに対して受け答える活動が少し足りないと考えられる。	・普段の授業において教師やALTのsmall talk や生徒同士のsmall talk, 英語のやり取りを継続し、聞く力を高めていく。 ・教科書の本文についてTrue or False クイズやQ＆Aなどを行っていく。
話すこと		
読むこと	平均正答率は市の平均に比べ、5.7ポイント低い。 ○日常的な話題についての英文の内容を読み取る問題は概ねよくできていた。 ●資料を読んでその問題に関する自分の考えを書く問題の正答率が11.6%と極めて低かった。資料の内容が読み取れなくて書けなかったということも考えられる。 ●書き手が一番伝えたい部分が何かをこたえる問題も正答率が低かった。	・英文の大まかな内容をつかむ活動をする。代名詞やthatなどの指示語が何を指しているかをつかませる。 ・書かれた英文について自分の意見や考えを書く活動を増やしていく。
書くこと	平均正答率は市の平均に比べ、11.7ポイント低い。 ○文中に適するものを選択する問題は比較的正答率が高かった。 ●与えられた情報に基づいて、説明する英文を書く問題の正答率はどの問題も圧倒的に低かった。まだ無記入も多かった。 ●与えられたテーマについて考えを英文で書く問題では、非常に正答率が低かった。	・新しい英文法を学習後、自己表現をさせ基本文の定着を図る。また、まとまった英文が書けるように、テーマを与え3文以上の英語で書く活動を随時行っていく。

宇都宮市立田原中学校 第３学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

【学習面】

○「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問に肯定的な回答をした生徒は61．5%であり，栃木県の平均を3．5ポイント，全国の平均を11．1ポイント上回っている。今後も家庭学習についての指導を行い，生徒に自主的・計画的に家庭学習に取り組ませていく。

●「学校の授業時間以外に，普段（月曜から金曜日），一日当たりどれくらいの時間，勉強しますか」という質問に「30分より少ない」「全くしない」と回答した生徒は10．8%であった。これは栃木県の平均より1・5ポイント上回っており，平日の勉強量が少ないことが分かる。「3時間以上」と答えた生徒は県・全国の平均より上回ってはいるので，ほとんど勉強していない生徒に対しての指導や支援が必要である。何をしてよいのか分からない生徒がいることも考えられるので，各教科で課題や宿題を出したり，基礎基本の定着プリント等を出したりすることで学習に向かわせていきたい。

●「読書は好きですか」という質問に対して，肯定的な回答をした生徒は73．5%であり，栃木県の平均をやや下回っていた。本校では朝の読書の時間が設けられ，また図書委員会が積極的に活動しているが，さらに生徒の読書活動を推進していきたい。授業内でも図書室を利用したり，図書館司書と連携を図ったりすることで，本に触れる機会を増やすとともに，本への興味関心も高めていく。

【生活面】
○「毎日朝食を食べていますか」「同じくらいの時刻に寝ていますか」「同じくらいの時間に起きていますか」の質問に肯定的な回答をした生徒は，どれも9割を超え，県や全国の平均を上回っている。家庭の協力も得られ，規則正しい生活を送ることができている生徒が多い。
○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に肯定的な回答をした生徒は71%であり，県や全国の平均を20ポイント以上を上回っている。地域がらもあるが，地域との連携が図れており，自分たちの地域のために積極的にボランティアに参加しようとする生徒が多い。

宇都宮市立田原中学校（第３学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業における「本時のねらい」を提示と「振り返り」の充実	・どの授業も，授業の始めに「本時のねらい」を必ず提示し，その時間に身につけることを明らかにする。最後には「振り返り」を行い，その授業で身につけたことを確認させる時間を取っている。	・「国語や数学の授業がわかる」の質問に肯定的な回答をした生徒は，8割を超えている。今後も継続して「本時のねらい」を示し，「振り返り」を工夫し，わかる授業を目指していく。
話し合い活動の積極的な導入	・話し合いに入る前に，各自で考えたり意見をまとめたりする時間を設定する。話し合いの意見交換の状況を見取ったり結論を導いた理由を確認したりする。	・「生徒の間で話し合う活動を通して，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思いますか」の質問に肯定的な回答をした生徒は，8割近い。今後も継続して話し合い活動を取り入れ，うまく伝わるような根拠を示させるなどして，自分の考えを深めさせていく
家庭学習の習慣化	・毎日意欲を持って取り組めるよう，教科間で内容の工夫や調整をする。学級担任により呼びかけをする。	・「学校の授業時間以外に，普段（月曜から金曜日），一日当たりどれくらいの時間，勉強しますか」の質問に、「30分より少ない」もしくは「全くしない」と回答した生徒が県の平均より上回っていた。今後も継続して，教科担当と連携を図りだれでも取り組めるような課題を与えたり、担任により呼びかけをしていく。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容